

新潟県立 文書館だより 第2号

平成13年9月10日

新聞特集

当館には新潟県史編さん室が複写した大量の文書等が引き継がれています。その中でも最も利用数の多いのが県内各地で発行された新聞です。明治初年の「北溟新聞（ほくそうしんぶん）」を最古として、以後1世紀にわたる各紙の消長からは、国政の動きから一般生活に至るまでの幅広い歴史情報をつぶさに読み取ることができます。紙面はすべて縮刷版のようにプリントされ、一定の期間、あるいは号数ごとに綴じられていますから、気軽に閲覧することができます。（紹介は、紙名・閲覧可能期間及び号数・備考の順で記し、紙名五十音順になっています。）

● 出雲崎月報（いずもぎげっぽう、複写）

明治45（1912）年1月1日付（第1号）～

大正2（1913）年12月15日付（第41号）

出雲崎月報社（三島郡出雲崎町）が月2回の割りで発行、第42号（大正3年1月1日付）から「出雲崎新報」と改称。

● 出雲崎新報（いずもぎしんぽう、複写）

大正3（1914）年1月1日付（第42号）～

大正3（1914）年12月20日付（第92号）

「出雲崎月報」を改称し、毎週日曜日発行。さらに第93号（大正4年1月1日付）から「中越新報」と改称しています。

● 魚沼新報（うおぬましんぽう、複写）

明治40（1907）年10月10日付（第803号）～

昭和3（1928）年2月27日付（第4318号）、

昭和21（1946）年8月4日付（第6472号）～

昭和23（1948）年7月25日付（第6575号）

明治40年10月10日、「越南新報」が改称して継続発行。戦後は毎週日曜日発行となりました。

明治41年、42年、43年1～9月、44年1～6月、大正元年10月～7年6月、11年7月～12年12月は欠本。

● 絵入新潟新聞（えいりにいがたしんぶん、複写）

明治18（1885）年10月20日付（第107号）～

明治20（1887）年4月28日付（第563号）

絵入新潟新聞社（新潟市）が明治18年6月17日から同21年12月29日まで発行した日刊紙で、新潟新聞社への合併により廃刊となりました。

明治18年11月、同19年6～12月は欠本。

● 越後大衆新聞（えちごたいしゅうしんぶん、複写）

昭和4（1929）年4月5日付（第1号）～

昭和4（1929）年4月25日付（第3号）

越後大衆新聞社（長岡市）から毎月5の日に発行されました。

● 越後毎日新聞（えちごまいにちしんぶん、複写）

昭和10（1935）年7月11日付（第256号）

越後毎日新聞社（新発田市）の発行。

● 越佐毎日新聞（えっさまいにちしんぶん、複写）

明治15（1882）年10月13日付（第382号）～

明治21（1888）年7月14日付（第2103号）

ただし、382号～391号、400号～417号、492号～528号、567号、1161号～1184号、1338号、1698号、2103号のみ。

越佐新聞社（長岡市、大橋佐平社主）発行の日刊紙。

● 越南新報（えつなんしんぽう、複写）

明治34（1901）年1月1日付（第1号）～

明治40（1907）年10月7日付（第802号）

越南新報社（南魚沼郡六日町）が月10回の割りで発行、第803号（明治40年10月10日付）から「魚沼新報」と改称。

● 蒲原大衆新報（かんばらたいしゅうしんぽう、複写）

昭和4（1929）年3月5日付（第14号）、

昭和4（1929）年9月15日付（第20号）

蒲原大衆新報社（新発田市）から毎月1回（当初5日）発行されました。

● 佐渡新聞（さどしんぶん、縮刷、複写）

明治30（1897）年9月11日付（第2号）～

明治31（1898）年12月28日付（第190号）

このうち1号、12号、24号、25号、28～50号、120号、147号欠本。

明治32（1899）年1月1日付（第191号）～

大正7（1918）年5月31日付（第537号）

佐渡新聞社（佐渡郡相川町、森知幾社主）から当初隔日に発行されたので、創刊は明治30年9月9日と思われます。同39年1月10日付（第1834号）から日刊になりました。

● 佐渡日報（さどにっぽう、複写）

大正4（1915）年3月1日付（第137号）～

- 昭和 13 (1938)年 4 月 29 日付(第 6970 号)
佐渡日報社 (佐渡郡相川町) 発行の日刊紙。
欠本多数。
- 佐渡毎日新聞 (さどまいにちしんぶん、複写)
明治 43 (1910)年 11 月 30 日付(第 2476 号)
佐渡毎日新聞社 (佐渡郡相川町) 発行。
 - 佐渡民友 (さどみんゆう、複写)
明治 45 (1912)年 7 月 7 日付(第 1 号)
佐渡民友社 (佐渡郡相川町) から月 2 回の割りで発行されました。
 - 週刊サンデー新潟 (しゅうかん—にいがた、複写)
昭和 24 (1949)年 6 月 26 日付(第 194 号)～
昭和 26 (1951)年 11 月 25 日付(第 321 号)
サンデー新潟社 (新潟市) が昭和 20 年 12 月 16 日に創刊した週刊紙で、日曜日発行。第 322 号 (昭和 26 年 12 月 2 日付)から「新潟新聞」と改称。
 - 上越日報 (じょうえつにつぼう、複写)
明治 40 (1907)年 7 月 10 日付(第 1 号)～
明治 41 (1908)年 10 月 31 日付(第 393 号)
上越日報社 (上越市高田) 発行の日刊紙。第 394 号 (明治 41 年 11 月 1 日付)から「高田日報」と改称。
 - 大衆時報 (たいしゅうじほう、複写)
昭和 6 (1931)年 2 月 5 日付(第 6 号)
大衆時報社 (長岡市) が昭和 5 年 11 月 20 日に創刊し、毎月 5 日と 20 日の 2 回発行されました。
 - 高田日報 (たかだにつぼう、複写)
明治 41 (1908)年 11 月 1 日付(第 394 号)～
昭和 4 (1929)年 8 月 31 日付(第 7845 号)
上越日報社が高田日報社と社名変更し、旧称「上越日報」を改称して継続。
 - 中越新報 (ちゅうえつしんぼう、複写)
大正 4 (1915)年 1 月 1 日付(第 93 号)～
昭和 14 (1939)年 6 月 26 日付(第 1283 号)
出雲崎月報社が中越新報社と社名変更し、旧称「出雲崎新報」を改称して継続しましたが、昭和 14 年 6 月 30 日付けで廃刊しました。
昭和 4 年 2 月～12 月、昭和 10 年、13 年は欠本。
 - 東北時報 (とうほくじほう、複写)
大正 10 (1921)年 3 月 8 日付(第 1 号)～
昭和 14 (1939)年 11 月 25 日付(第 959 号)
東北時報社 (新潟市) が当初月 3 回 (8 の日) 発行、のち週刊となりました。昭和 14 年 8 月 27 日付 (第 956 号) で以後無期休刊を宣言しますが、同年 9 月 25 日付 (第 957 号) から月刊で継続。
 - 東北日報 (とうほくにっぽう、複写)
明治 31 (1898)年 4 月 1 日付(第 3411 号)～
明治 41 (1908)年 3 月 31 日付(第 6415 号)、
大正 3 (1914)年 11 月 1 日付(第 8541 号)～
大正 3 (1914)年 11 月 24 日付(第 8564 号)
東北日報社 (新潟市) 発行の日刊紙で、創刊は明治 21 (1888)年 9 月 25 日、その前身は「有明新聞」といわれています。明治 41 年 4 月 1 日付から大正 3 年 10 月 31 日付まで「新潟東北日報」と称しました。同年 11 月 25 日新潟新聞社と合併したので、新潟県内での発行をやめ、従来の会社機能を会津若松市に移して新潟新聞社の支社とし、そこで「東北日報」を続刊しました。
 - 十日町新聞 (とのかまちしんぶん、縮刷)
明治 41 (1908)年 9 月 21 日付(第 1 号)～
昭和 13 (1938)年 12 月 25 日付(第 2179 号)
十日町新聞社 (十日町市) が月 6 回 (5、10、15、20、25、30 日) 発行。
 - 新潟隔日新聞 (にいがたかくじつしんぶん、複写)
明治 6 (1873)年 12 月 4 日付(第 1 号)～
明治 7 (1874)年 8 月 17 日付(113 号)
新潟・坪井活版社発行。「北湊新聞」を改称したものとされていますが、詳細も終刊の年代も不明です。
 - 新潟県中央新聞(にいがたけんちゅうおうしんぶん、複写)
昭和 15 (1940)年 12 月 1 日付(第 20309 号)～
昭和 17 (1942)年 10 月 31 日付(第 21004 号)
「北越新報」が改称して継続。昭和 16 年 2 月 4 日付けから社名も新潟県中央新聞社と変更。同 17 年 11 月 1 日付から「新潟日報」に統合されました。
 - 新潟商業新報 (にいがたしょうぎょうしんぼう、複写)
明治 28 (1895)年 1 月 4 日付(第 1020 号)
北越商報社 (新潟市) 発行の日刊紙。
 - 新潟新聞 (にいがたしんぶん、複写)
明治 10 (1877)年 4 月 10 日付(第 1 号)～
大正 5 (1916)年 7 月 31 日付(第 12582 号)、
大正 6 (1917)年 8 月 1 日付(第 366 号)～
昭和 16 (1941)年 7 月 31 日付(第 21669 号)
新潟新聞社 (新潟市) 発行で、県内最古の日刊紙。
大正 5 (1916)年 8 月 1 日付から翌 6 年 7 月 31 日付の間社内事情により「日刊新潟」、「新潟日報」、「新潟新報」と改称しています。
明治 37 年 2 月、大正 5 年 12 月、昭和 5 年 11 月、同 11 年 6 月、同 12 年 12 月は欠本。
 - 新潟新聞 (にいがたしんぶん、複写)

- 昭和 26 (1951)年 12 月 2 日付(第 322 号)～
 昭和 28 (1953)年 5 月 30 日付(第 424 号)
 旧称「週刊サンデー新潟」を改称して継続。
- 新潟新報 (にいがたしんぼう、複写)
 大正 6 (1917)年 1 月 1 日付(第 154 号)～
 大正 6 (1917)年 7 月 31 日付(第 365 号)
 大正 5 年 12 月中 (日付未確認) に新潟社の「新潟日報」を新潟新報社 (新潟市) が引き継いで改称したもので、大正 6 年 8 月 1 日から新潟新聞社による「新潟新聞」に戻ります。「新潟新聞」と合綴。大正 5 年 12 月は欠本。
- 新潟スポーツ (にいがた——、複写)
 昭和 22 (1947)年 8 月 6 日付(第 1 号)～
 昭和 22 (1947)年 11 月 19 日付(第 12 号)
 新潟運動社 (北村太市社長) 発行の週刊紙で、県内外開催の競技会での県人の記録をまとめています。終刊は不詳。(請求記号 D34 - KT)
- 新潟大衆新聞 (にいがたたいしゅうしんぶん、複写)
 昭和 2 (1927)年 8 月 10 日付(第 1 号)～
 昭和 2 (1927)年 9 月 5 日付(第 3 号)、
 昭和 3 (1928)年 1 月 15 日付(第 5 号)
 新潟市・野口伝兵衛編刊、当初月 3 回発行の予定だったようです。
- 新潟東北日報 (にいがたとうほくにっぽう、複写)
 明治 41 (1908)年 4 月 1 日付(第 6416 号)～
 大正 3 (1914)年 10 月 31 日付(第 8540 号)
 東北日報社 (新潟市) 発行の日刊紙。「東北日報」は県外に同名紙があり、混同をさけるため「新潟」の文字を加えたといわれます。
- 新潟日日新聞 (にいがたにちにちしんぶん、複写)
 明治 18 (1885)年 7 月 24 日付(第 709 号)～
 明治 18 (1885)年 12 月 25 日付(第 837 号)
 新潟日日新聞社 (新潟市) 発行の日刊紙。
- 新潟日日新聞 (にいがたにちにちしんぶん、複写)
 昭和 16 (1941)年 8 月 1 日付(第 1 号)～
 昭和 17 (1942)年 10 月 31 日付(第 454 号)
 新潟新聞社と新潟毎日新聞社 (両社とも新潟市) が合併して新たに創刊した日刊紙。454 号で終刊。
 昭和 17 年 5・6 月欠本。
- 新潟日報 (にいがたにっぽう、複写)
 明治 37 (1904)年 2 月 5 日付(第 3704 号)～
 明治 37 (1904)年 5 月 6 日付(第 3793 号)、
 明治 37 (1904)年 7 月 2 日付(第 3850 号)
 新潟日報社 (新潟市) 発行の日刊紙で、創刊は明

- 治 24 (1891)年 11 月。終刊は不詳。
- 新潟日報 (にいがたにっぽう、複写)
 大正 5 (1916)年 11 月 16 日付(第 12690 号)～
 大正 5 (1916)年 11 月 30 日付(第 12704 号)
 新潟社 (新潟市) が「日刊新潟」を改称して継続発行したもので、号数は「新潟新聞」からの通算です。
 大正 5 年 12 月中 (日付未確認) に新潟新報社の「新潟新報」に変わります。大正 5 年 12 月欠本。
- 新潟日報 (にいがたにっぽう、複写、一部縮刷版)
 昭和 17 (1942)年 11 月 1 日付(第 1 号)～
 昭和 32 (1957)年 12 月 31 日付(第 5508 号)、
 昭和 41 (1966)年 4 月 1 日付(第 8496 号)～
 昭和 53 (1978)年 3 月 31 日付(第 12816 号)
 新潟日報社 (新潟市) 発行の日刊紙で、昭和 17 年 11 月 1 日会社設立以来現在に至っています。
- 新潟日報夕刊 (にいがたにっぽうゆうかん、複写)
 昭和 27 (1952)年 7 月 1 日付(第 3513 号)～
 号数は朝刊と合一。新潟日報複写・縮刷 (上記) に合綴。
- 新潟日曜新聞 (にいがたにちようしんぶん、複写)
 明治 37 (1904)年 6 月 6 日付(第 449 号)～
 明治 39 (1906)年 2 月 26 日付(第 512 号)
 日曜社 (新潟市) から日曜日と大祭翌日に発行され、「東北日報」読者には無料配布されました。
 明治 37 年 11 月～同 38 年 2 月は欠本。
- 新潟毎日新聞 (にいがたまいにちしんぶん、複写)
 明治 43 (1910)年 3 月 15 日付(第 1 号)～
 明治 43 (1910)年 9 月 30 日付(第 196 号)、
 明治 44 (1911)年 11 月 1 日付(第 592 号)～
 明治 44 (1911)年 11 月 30 日付(第 621 号)、
 明治 45 (1912)年 5 月 16 日付(第 789 号)～
 明治 45 (1912)年 5 月 22 日付(第 795 号)、
 明治 45 (1912)年 6 月 1 日付(第 805 号)～
 大正元 (1912)年 9 月 30 日付(第 926 号)
 大正 3 (1914)年 8 月 9 日付(第 1601 号)～
 大正 3 (1914)年 8 月 26 日付(第 1618 号)
 新潟毎日新聞社 (新潟市) 発行の日刊紙で、明治 43 年 3 月 15 日創刊、昭和 16 (1941)年 7 月 31 日終刊。「新潟新聞」と肩を並べる存在でした。
 上記内には数日単位の欠本があります。
- 西蒲新報 (にしかんしんぼう、複写)
 大正 13 (1924)年 8 月 1 日付(第 1 号)～
 大正 14 (1925)年 1 月 1 日付(第 10 号)
 西蒲新報社 (西蒲原郡巻町) 発行。月 2 回 (1 日・15

日)刊。

● **日刊新潟** (につかんにいがた、複写)

大正5(1916)年8月1日付(第12583号)～

大正5(1916)年11月14日付(第12688号)

新潟社(新潟市)が「新潟新聞」を引き継いで発行。
大正5年11月16日付から「新潟日報」と改称しましたが、号数は「新潟新聞」から通算しています。

● **農村新聞** (のうそんしんぶん、複写)

昭和11(1936)年9月15日付(第1号)

農村新聞社(上越市高田)発行の月刊紙。

● **北越新聞** (ほくえつしんぶん、複写)

明治14(1881)年6月6日付(第56号)

北越新聞社(長岡市、草間時福総理)発行。

● **北越新報** (ほくえつしんぼう、複写)

大正11(1922)年12月31日付(第13791号)～

昭和15(1940)年11月30日付(第20308号)

北越新報社(長岡市)発行の日刊紙。昭和15年12月1日付から「新潟県中央新聞」と改称継続。

● **北湊新聞** (ほくそうしんぶん、複写)

明治5(1872)年3月付(第2号)～

明治5(1872)年6月付(第5号)

原本はB5版相当の美濃版袋綴じ。県職員坪井良作が県活版所を民営化して明治5年2月から発行したもので、国や県の布告を中心とした内容でした。県内での新聞発行のさきがけでしたが、翌6年県が「新潟県治報知」を創刊するに及んで廃刊したといわれています。42号まで発行されたことが確認されていますが、何号で終刊したかは不明です。

● **夕刊ニヒ(イ)ガタ** (ゆうかん——、複写)

昭和21(1946)年5月16日付(第1号)～

昭和24(1949)年12月31日付(第1315号)

新潟日報社系列の夕刊新潟社(新潟市・会津八一社長)発行の日刊紙。昭和25年1月1日付から新潟日報社に合併して「夕刊新潟日報」と改称、さらに同27年7月1日付から「新潟日報夕刊」となって現在のような朝夕刊スタイルになりました。

本号で紹介している新聞は、いつでも閲覧ができます。

① 閲覧を希望される方は、受付へ閲覧証(申請あり次第発行します)を提示し、「閲覧請求票」で請求してください。

② 「閲覧請求票」には、氏名・閲覧証番号・住所等も明記し、「〇〇新聞〇年〇月分」、あるいは請求記号をお書きください。

③ 複写の新聞はすべて電子コピー(有料)が可能です。希望の方は「複写承認申請書」でお申し込みください。

● **夕刊新潟日報** (ゆうかんにいがたにっぽう、複写)

昭和25(1950)年1月1日付(第1号)～

昭和27(1952)年6月30日付(第908号)

● **夕刊北越新報** (ゆうかんほくえつしんぼう、複写)

昭和24(1949)年9月16日付(第1号)～

昭和27(1952)年6月30日付(第1015号)

当初北越新報社(長岡市)が発行。同社が新潟日报社と合併したため、昭和25年7月2日付から長岡支社が継続発行しています。同27年7月1日付から「新潟日報夕刊」に統一されました。

● **萬国新聞紙** (ばんこくしんぶんし、複写)

慶応3(1867)年1月中浣(初集)

慶応3(1867)年2月中浣(第2集)

英国領事館牧師ベイリーによって横浜で発行されました。第15集(明治2年2月)から「萬国新聞」と改称しましたが、第18集(明治2年5月)限りで廃刊となりました。当初は美濃版袋綴じでした。

● **まいにちひらかなしんぶんし** (複写)

明治6(1873)年9月11日付(第146号)～

明治6(1873)年12月5日付(第220号)

上記の内147、183、204、205、206、207、217、218号

前島 密が漢字廃止論の立場で婦女子の啓蒙を主目的に明治6年2月創刊した日刊紙ですが、翌7年5月には廃刊となったようです。

● **阿部家旧蔵各紙** (あべけきゅうぞうかくし)

明治34(1901)年から昭和42(1967)年の間に発行された県内外の新聞26紙で、昭和26(1951)年から同30(1955)年にかけての「新潟日報」が最も多数です。大ぞろいは少ないですが、発行当時の原本の状態はよく保っています。(本多陽子)

(請求記号 E37、E96、E147)

● **渡辺起夫文庫** (わたなべたけおぶんこ)

郷土史・民俗・人物・文化・歴史一般等に関する書籍が中心ですが、明治末期から昭和戦後に至る地元紙のスクラップ収集からも研究の幅広さを読み取ることができます。地元生まれで地元紙や文化活動の発展に尽くす一方、広い視野からの郷土史研究に足跡を残した渡辺氏(1905～80)の熱意がうかがわれます。(請求記号 E5) (高橋郁子)

編集・発行 **新潟県立文書館**

〒950-8602 新潟市女池南3丁目1番2号

TEL.025-284-6011 FAX.025-284-8737